

# J Report

Winter  
2025  
Vol.10



人に寄り添いこころから支える医療

長野県 鷲岳山頂

## 冬の時期に 特に注意したい 呼吸器症状 **咳**



呼吸器内科 主任医長 福岡みずき

**冬** 本番の寒さが身に染みる季節ですね。気温が低く乾燥することで、風邪、インフルエンザなどの感染症にかかりやすくなりますね。風邪のあと、咳だけが長引いて困った経験はありませんか。

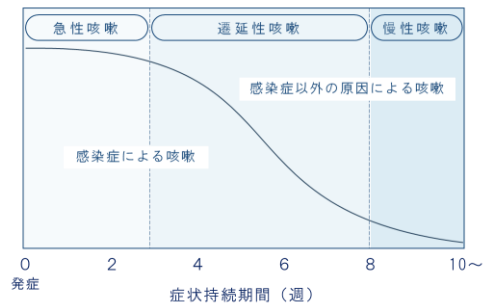
1回咳をすると2kcal消費するともいわれており、遷延すると睡眠障害、尿失禁など起こすこともあり生活の質を落とします。ただの風邪なら1週間もすればよくなるはずなのに、咳がひどいと医療機関を受診し、抗生剤と吸入薬を処方される。そんな場合もありそうです。

呼吸器内科医師



咳には、持続期間が3週未満の急性咳嗽(がいそう)、3週を超えて8週までの遷延性咳嗽、8週以降の慢性咳嗽という分類があります。持続期間によりその原因が異なり、急性咳嗽はそのほとんどが感染症によるものです。3週を超えると感染後咳嗽のほか、咳喘息、アトピー咳嗽などのアレルギー性の咳嗽や、後鼻漏、胃食道逆流症による咳などの割合が増えていき、8週を超える慢性咳嗽では感染性のものはほぼ否定できるという意味合いがあります。

症状持続期間と感染症による咳嗽比率



日本呼吸器学会 咳嗽・感染症の診療ガイドライン2019より引用

感冒、すなわちウイルス性感染であれば抗生剤は不要ですし、1週間すぎていても感染後咳嗽であれば吸入ステロイド薬などは必要なく、咳止めや去痰薬などの対症療法のみでだんだんよくなります。この見極めは、「咳の症状がピークをすぎているか」がポイントになります。とはいえ、咳はあらゆる呼吸器疾患の症状となり、肺癌・間質性肺炎などの重篤な疾患、肺結核などを見逃さないようにすることが大切です。マイコプラズマも4年毎に流行しオリンピック病ともいわれていましたが、コロナ禍を経て8年ぶりの大流行であり、重症化した場合には適切な抗生剤の投与が有効です。呼吸器内科にご相談ください。

# NEW OPEN

## 2025.3.24 mon

### A棟（新病棟）開業のお知らせ

最新の設備で、質の高い医療サービスを提供します

#### 1. 快適性を追求した療養病室

- すべての病室内にトイレを設置します。
- プライバシーを高め半個室化した4床室(有償)を新設します。
- 各病室に、自然光を活かした採光や部屋ごとの自然換気を導入し、療養環境を向上させます。



#### 2. 機能と安らぎを両立させた病棟

- 免震構造の採用、感染対応の強化、井戸の整備など、災害対策を行います。
- ICカードによるセキュリティを導入し、安心して療養いただける環境を整備します。
- e棟(人間ドックセンター)と同様、1階総合受付に東京の木・多摩産材を使用し、ぬくもりある空間とします。



#### 3. 利便性を重視した部門配置等

- A棟1階に「患者支援センター」を新設し、患者さまの様々なニーズにお応えべくサポート体制を拡充します。
- 消化管検査センターが外来7階にリニューアルオープンします。
- 糖尿病・内分泌内科、栄養相談室を外来1階で近接させ、受診動線をスムーズにします。



#### 患者さまへのお願い

現病棟の解体等、当院敷地内での工事は引き続き実施いたします。そのため、2025年3月24日より、病院入口は現在の外来棟1階の正面玄関の一か所となります(JR南新宿ビル方面からもアクセスできます)。

ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。工事の進捗等は、院内掲示、当院ホームページにてお知らせいたします。

ご不明な点がございましたら当院スタッフへお尋ねください。